

# ガブリエーリとシュツツ ～神聖なる響きの大伽藍～

2019年11月11日(月)開演19時(開場18時20分)

※18時30分より福島康晴の解説がございます。

東京文化会館小ホール

ガブリエーリ 〈主に向かって新しい歌を歌え〉(8声) [シュツツ編曲版]

〈会衆の中で主をたたえよ〉(14声)

〈マニフィカト〉(17声)

シュツツ 〈我が息子アブサロムよ〉(バス・ソロと4本のトロンボーン)

〈私の魂は力を失いました〉(2人のテノールと2本のコルネット)

〈父なる神よ、敬虔なる御子に目を向けて下さい〉(4声)

Giovanni Gabrieli (1554/7-1612)

Cantate Domino canticum novum [trascrizione di Schütz] / In ecclesiis benedicite Domino / Magnificat

Heinrich Schütz (1585-1672)

Fili mi, Absalon / Anima mea liquefacta est / Aspice Pater piissimum Filium

ソoprano: 阿部早希子、村松稔之

アルト: 金沢青児、小沼俊太郎

テノール: 前田ヒロミツ、山中志月

バリトン: 西久保孝弘

バス: 松井永太郎、目黒知史

ヴァイオリン: 小玉安奈、高橋亜季

コルネット: 上野訓子、笠原雅仁(テオルボ)

トロンボーン: 石原左近、小野和将、南紘平、宮下宣子

ヴィオローネ: 櫻井茂

テオルボ: 佐藤亜紀子

オルガン: 新妻由加

指揮: 福島康晴

チケット (全席自由)

前売: 4,500円 (東京文化会館友の会会員 4,000円)

当日: 5,000円

U-30(30歳未満): 2,500円 (要予約・ムジカキアラのみ取り扱い)

チケット予約&お問い合わせ

ムジカキアラ 電話: 03-6431-8186 (平日10時~18時)

メール: info@musicachiara.com

その他チケット取り扱い

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 161866]

イープラス <http://eplus.jp>

東京古典楽器センター 03-3952-5515

助成: 公益財団法人 朝日新聞文化財団

公益財団法人 **NOMURA** 野村財団

マネジメント: ムジカキアラ



Giovanni Gabrieli Heinrich Schütz

16世紀のサン・マルコ大聖堂では壮大な音楽が鳴り響いていました。「ヨーリ・スペッツァーティ Cori spezzati(分割合唱)」という手法を使った10声を超えるような多声部の作品が頻繁に作曲されていたのです。「ヨーリ・スペッツァーティ」とは、複数の声部をいくつかのグループに分け、グループごとに離れて演奏する形態で、時には音が前からだけでなく横から後ろから上から振ってくるという3次元のサラウンド効果を狙ったものです。既に400年以上前からこのような試みが追求されていたことに驚きを禁じ得ません。サン・マルコ大聖堂の礼拝堂楽長であったアドリアン・ヴィラールト(在位1527-63)から始まったこの流れは

アンドレーア・ガブリエーリ(第1オルガニスト在位1584-85)と甥のジョヴァンニ・ガブリエーリ(第1オルガニスト在位1585-1612)へと受け継がれ頂点を極めました。特にジョヴァンニは20声以上の作品も残すなどヨーリ・スペッツァーティを最大限推し進めました。一方、ハインリヒ・シュツツはジョヴァンニ・ガブリエーリに薰陶を受けるべくジョヴァンニの晩年にヴェネツィアへやってきました。師の寵愛を受け、イタリアのスタイルを学びドイツへ帰国します。その後、1628年に再びヴェネツィアを訪れ、既に礼拝堂楽長として君臨していたモンテヴェルディと出会い、更に新しい音楽の潮流を目の当たりにしたことでしょう。ジョヴァンニ・ガブリエーリの流麗で壮大な音楽と、その影響を受け、表現力に富んだシュツツのラテン語作品をお楽しみ頂きます。



### 福島康晴(指揮)

モンテヴェルディ生誕の地であるクレモナにて研鑽を積んだ指揮者=テノール=作曲家。東京音楽大学大学院作曲科修了後バロック音楽に傾倒し、声楽を牧野正人氏に師事する。2006年よりイタリア・ミラノ市立音楽院古楽科にてルネッサンス・ポリフォニーをD.フラティーリ氏の下で学ぶ。これまでに声楽をB.M.カゾーニ、V.マンノの各氏に師事。また、モンテヴェルディ周辺の音楽理論・演奏慣習をR.ジーニ(ヴィオラ・ダ・ガンバ)に師事。2009年にミケランジェロ・グランチーニ(1605-60)の論文とコンサートにより、最高点・褒賞付きで修了。主宰するアンサンブル・グランチーニの演奏はイタリア公共放送〈Radio Rai 3〉で生中継された。併せてミラノ市立音楽院の指揮科にも在籍し、E.ポマーリコ、R.リヴォルタ、杉山洋一の各氏に師事。2012年12月に帰国以来日本での活動を本格的に再開する。2014年2月にALM Recordsより発売されたA.ステッファーニ『2声のための室内カンタータ集(コード芸術特選盤)』ではテノールとして参加した他、楽譜の校訂にも携わり、その楽譜はミラノのPian & Forte edizioni社より出版された。洗足学園音楽大学非常勤講師。

### エクス・ノーヴォ室内合唱団

16~17世紀イタリアの聖歌隊を範とし、各パート1人から3人という少数精銳のアンサンブルを基調とするプロフェッショナルな団体。イタリア音楽、それも後期ルネッサンスからバロック時代にかけての宗教曲をレパートリーの中心に据え、コンサートで取り上げる作品は、必ずそのオリジナル印刷譜または手稿譜を研究し、当時の音楽理論書も参考しながら演奏を構築する。ヨーロッパでは頻繁に演奏されるけれども日本ではあまり取り上げられない作品、ヨーロッパの古文書館に収められたまま、まだ演奏されていない未知の作品、そして、既にレパートリーとして定着しているけれども演奏法を再考する必要があると思われる作品を「初めから作り直す EX NOVO(ラテン語)」ことを掲げ2014年に誕生した。一昨年からNHK-Eテレの子供向け教育番組『デザインあ』のコーナー「ガマンぎりぎりライン」でも声の出演をしている。

SOPRANI



阿部早希子



村松稔之

ALTI



金沢青児



小沼俊太郎

TENORI



前田ヒロミツ



山中志月

BARITONO



西久保孝弘

BASSI



目黒知史



松井永太郎

VIOLINI



小玉安奈



高橋亜季

CORNETTI



上野訓子



笠原雅仁

EX  
NOVO



TROMBONI



石原左近



小野和将

VIOLONE



南紘平



宮下宣子

TIORBA



櫻井茂



佐藤亞紀子

ORGANO



新妻由加